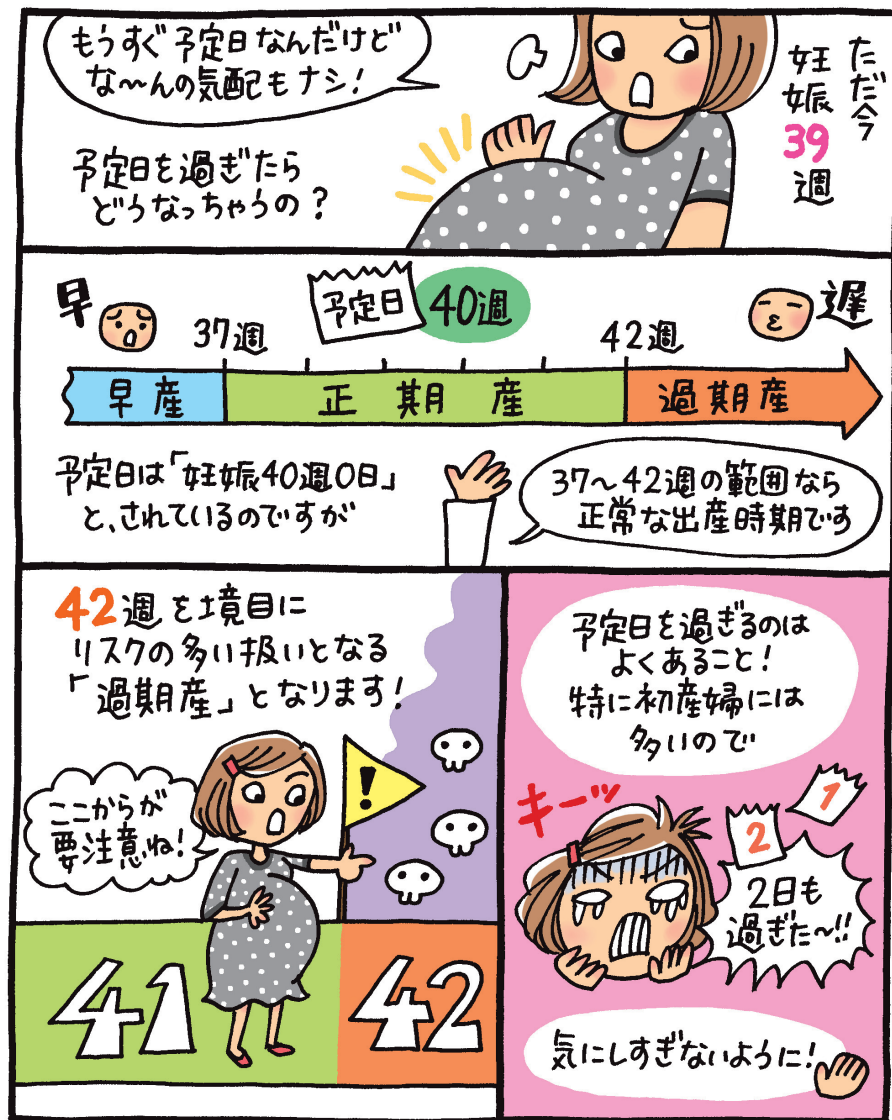




## 予定日を過ぎているのに 生まれない!



## 予定日を2週間以上超えなければ 心配はありません

- 「過期妊娠」とは、出産予定日を2週間以上超えることをいいます。42週を超えるまでは正常の範囲ですので心配はありません。
- 初産婦さんの場合、子宮の出口が柔らかく開きやすくなる「熟化」が起こりにくいこともあり、陣痛の訪れが予定日を超えることもめずらしくありません。
- 42週を超えた「過期産」は全妊娠の4~10%程度といわれていますが、実際に「過期産」になってからでは、お母さんと赤ちゃんの出産リスクが上昇するため、42週に入る前に分娩誘発を行うのが一般的です。分娩誘発とは、陣痛促進剤を点滴などで入れるなどの医療行為をいいます。

### MEMO



## 42週を過ぎると どんなリスクがあるの？



## 分娩時外傷、大量出血など 特に母体側に問題が起こりがちです

- 「早産」など赤ちゃんの発育が小さめの場合は、一般に赤ちゃんの低酸素による合併症に注意が必要ですが、42週を超える「過期産」の場合は、分娩外傷など赤ちゃんの体重が増加していることによる母体への影響を心配することになります。
- 母体への影響は、単に分娩時の外傷が大きくなるだけでなく、お産が途中で止まる「分娩障害」、赤ちゃんの肩の部分が出てこないことによる「肩甲難産」のほか、産後の出血が止まらなくなる「弛緩出血」（妊娠&出産のトラブル解説を参照）といった深刻なケースもあります。
- 赤ちゃんへの影響で考えられるケースとしては、「胎便吸引症候群」があります。これは、混濁した羊水や胎便を吸引してしまい、生まれてから呼吸障害を起こすことです。また、分娩の際の「鎖骨骨折」や首から肩の神経に障害が起きる「Erb 麻痺」などは、赤ちゃんが大きいほどリスクが高いといわれています。「周産期死亡（死産と生後1ヶ月までの赤ちゃんが亡くなってしまう新生児死亡）」のリスクも避けられません。これらのリスクは、42週を超える前に行う分娩誘発によって減らせるという報告が多いようです。



## 過期産を避ける方法は？

まず、より正しい予定日もココで  
 期間に個人差がある  
 8 9週 11 40週0日  
 最後の生理の 排卵 2cm  
 Check!  
 この時が 個人差が 少なくてベスト  
 石確認・修正します  
 これを元に 計算して...  
 予定日 決定!

その予定日もこえたら 医師と相談  
 42週まで 待機?  
 誘発って...?  
 41週で 分娩誘発?  
 当センターでは リスクの少ない こちらをオススメ!

分娩誘発する場合  
 前提として  
 ・赤ちゃんの状態をcheck  
 ・子宮口が熟化している (分娩の準備ができています)  
 ↓  
 あまりにも子宮口が硬く 閉じていたら待機、など  
 状況も確認しつつ行います

## 状態を監視しながらの分娩待機か、分娩誘発を行うかを選択します

- 40週を受診で兆候がない場合、まず妊娠週数があるか再度チェックします。妊娠初期までさかのぼり、個体差の少ない8週目頃の赤ちゃんの大きさを超音波写真などで確認します。
- 出産予定日に大幅なズレがないことが確認できたら、妊娠41週で自然陣痛による分娩待機か、過期産を避けるための分娩誘発のいずれかを選択します。最近の報告では、妊娠42週までに分娩誘発を行うほうが「周産期死亡」や「胎便吸引症候群」の発生率が低いというケースが多く見られるため、当センターでは妊娠41週を超えた場合には入院していただき、分娩誘発の準備を行います。

### 妊娠41週以降での分娩誘発群と自然陣痛待機群のリスク比

	分娩誘発群	自然陣痛待機群
周産期死亡率	0.31	1
胎便吸引症候群	0.43	1
巨大児(出生体重>4000g)	0.72	1

(Hussain et al. BMC Public Health 2011,11 (Suppl 3) : S5)

- 自然陣痛による分娩待機を選択した場合は、赤ちゃんの心拍数や発育の状態、羊水量など、お母さんと赤ちゃんの状態を頻りにチェックします。これらの検査内で異常が見られた場合は分娩誘発へ、また42週に入っても出産に至らない場合にも同じく分娩誘発を行います。
- 分娩誘発は陣痛促進剤を点滴する方法がとられますが、これにはある程度の子宮口の熟化(柔らかくなり開いてくること)が条件となります。熟化していない場合には熟化を促すための処置が必要になるので、自然分娩を待つこともお産の準備という点においてはメリットがあるのです。